

## 第2編

# 道路分科会

### 【要旨】

本編では、道路分科会の概要について述べる。道路分科会は、橋梁WG1（モニタリング）、橋梁WG2（補修・補強）、道路構造物・トンネルWGの3つのWGにて活動した。各WGの概要は以下のとおりである。

橋梁WG1（モニタリング）では、簡易なモニタリング手法の確立に向け、現状の点検技術に関する要望、社会的動向の整理、および近接目視代替機の検証を UAV により実施した。

橋梁WG2（補修・補強）では、具体的手法が確立されていない長寿命化修繕計画の手引きとして、計画策定の基本的な手法、修繕計画策定における点検要領の留意点、修繕計画策定時の仮定条件および仮定条件の違いによる LCC の算出について述べ、仮定条件の種類や傾向を抽出するため計画策定会社を対象としたアンケートを実施した。また、小規模橋梁に対する架け替え型の維持管理についてケーススタディとして実施した。

道路構造物・トンネルWGでは、今後の道路トンネル点検のあり方について提言すべく、点検の現状と課題、変状原因と変状事例、背面空洞の調査方法と充填対策について述べた。

平成22年10月、大阪府が解体・撤去が決まっている旧鳥飼大橋を調査フィールドとして開放し調査希望機関を募集した。本研究委員会（第2次委員会）の前身である『公共土木施設の維持管理に関する研究委員会』（第1次委員会）にて取り組んだ研究成果を踏まえ新たなテーマに取り組んだ。第1次から第2次までの研究成果は、「応力発光シートによる鋼部変状の検出」、「鋼材板厚計測による腐食状況」、「鋼材とコンクリート部材の材料試験」、「老朽橋の長寿命化計画への材料試験結果の反映方法」である。